※2002年5月作成

Ａ－2003年北海道知事選挙のシミュレーション

◎注目知事選挙での候補者イメージ

※「Ｂ－注目する知事選挙」を参照

○女性と若者の支持。高い知名度、若さと新鮮さ。市民派・草の根運動からの支持。
○閉塞感を打破するリーダーシップ。変革への期待感。
○保守層の一部をも惹きつける人物的魅力と識見。国際感覚。
○構図としての「官と民の争い」。県庁批判。
○構図としての「相乗りと無党派の争い」。既成政党批判。

※「無党派の出番」（投票率アップ）を促すドラマ性。マスコミ好みの演出。

×多選首長。官僚出身。副知事からの候補。
×相乗り候補（無節操さ）。

◎注目知事選挙から提出されている課題

①「与野党相乗り」の構図（無節操さのイメージ）からの脱却
②「55年体制」型の構図からも脱却
③選挙スタイルも政党・組織主導型イメージからの脱却
※いわゆる「勝手連型・草の根選挙」に対する市民の共感
④「官民対決」（官の側に立つ）の構図は最悪

※投票基礎数は「Ｃ－99年知事選挙－堀知事の得票構造の分析」を参照

◎パターン1…いわゆる「無風選挙」相乗り現職と共産+泡沫。投票率58％

※相乗りは「総与党的」現職。投票率最大で58%

	投票基礎数	相乗り現職	共産+泡沫	投80%比
自民	560,000	476,000	84,000	0.9×0.85
民主	412,500	288,750	123,750	0.75×0.7
公明	270,000	243,000	27,000	0.9×0.9
自由	120,000	108,000	12,000	0.8×0.9
社民	105,000	42,000	63,000	0.7×0.4
共産	270,000	13,500	256,500	0.9×0.05
その他	105,000	63,000	42,000	0.7×0.6
無党派A	828,000	496,800	331,200	0.6×0.6
計	2,670,500	1,731,050	939,450	

※札幌市長選挙も同様の構図と想定。投票率は58％以下。
【投80%比】とあるのは「投票率80%の場合＜有権者の関心が最大値＞の投票参加率」×「現職への配分率」とした。
※有権者の選択肢が限定されたため、結果的に現職は過去最高得票。
自民ほぼ前回並、民主微増（伊東分）、公明比率でほぼ前回並、

◎パターン2…激戦「有力無党派・相乗り現職・共産」。投票率80％

※相乗りは「総与党的」現職

	投票基礎数	有力無党派	相乗り現職	共産	現職配分率
自民	700,000	200,000	500,000		71.4
民主	550,000	350,000	200,000		36.4
公明	300,000	50,000	250,000		83.3
自由	150,000	100,000	50,000		33.3
社民	150,000	125,000	25,000		16.7
共産	300,000	80,000	20,000	200,000	6.7
その他	150,000	100,000	50,000		33.3
無党派A	1,380,000	880,000	500,000		36.2
計	3,680,000	1,885,000	1,595,000	200,000	

※現職は善戦して前回並の得票をしても惜敗。むしろもっと減る可能性あり。
公明は現職支持で固まるが、自民支持層の一部が離反。
民主支持層は無党派化。共産支持層ももっと有力無党派に傾斜する可能性あり。

◎パターン3…激戦・新人対決。投票率80％

※民主系は「無党派的」新人

	投票基礎数	民主系	自民系	共産	自民得票分
自民	700,000	50,000	650,000		92.9
民主	550,000	500,000	50,000		9.1
公明	300,000	90,000	210,000		70.0
自由	150,000	50,000	100,000		66.7
社民	150,000	125,000	25,000		16.7
共産	300,000	130,000	20,000	150,000	6.7
その他	150,000	75,000	75,000		50.0
無党派A	1,380,000	780,000	600,000		43.5
計	3,680,000	1,800,000	1,730,000	150,000	

※あくまで基本構造。候補による変化はある。
ここでは公明、自由は自民系に傾斜。共産は勝ち馬指向に乗る